

3) 過敏性体質といわゆる神経質との間には0.6以上の相関関係が見られた。

4) 両親の性格、躰の態度など親子関係の心理的面は非常に大きな影響のあることを知った。父の性格では感情にむらがある、うるさく干渉するなど、母親では、りくつっぽい、物事に敏感であるに1%以下の危険率で有意の差が認められた。躰の態度としては民主合理型・放任型・厳格型・溺愛型などでおのおのそれらの傾向が強い時にはいずれも神経質傾向の強い子供が80%前後に現われる。ことにその影響は母親の場合に大きい。しかし民主合理的躰の場合にも40%近くの神経質児がみられる。このことは神経質傾向は過敏性体質傾向の場合と同じくある程度は生理的反應の現われであり、素質的な影響が大きいことを物語っている。従ってその傾向の有無よりも、程度の強弱が問題とさるべきであり、それとともに、環境の影響が論ぜられるべきものであると考える。

106 学童に於ける永久歯萌出と知能の關係に就いて (第二報)

(大阪学芸大 衛生) 富士 貞吉 上杉日出登○辻 隆子 海藤 史朗

既に、われわれは学童を対象に、永久歯萌出数を中心に、性別、I. Q., 満年齢、学業成績などと相関関係を求めて報告した。

今回は、調査項目の各々につき、更に詳細に検討を加え、永久歯萌出については、ただ単に萌出数のみを算定するのみならず、萌出値なるものを設け、萌出の度合を考慮に入れて調査した。また、対象となる学童についても、体格、栄養等を考慮に入れて、標本としての質的均一化をはかり、調査の対象とした。

かくの如くにして得た調査項目について、推計学的な処理を施し、一定の結果を得たので報告する。

107 疲労より見た学童の健康管理

特に教課内スポーツと修学旅行に就いて

(北大 医学部 衛生) ○人見健造 高桑栄松

学童の健康管理に関しては戦後とくに注目されるようになったが、各種スポーツを通じて学童の体位向上も著しく、發育基準において戦前のそれを凌駕しつつある。しかしながら一方運動量の過大より惹起される疲労の蓄積は健康管理上の関心事となってきたので、小学校教課内スポーツの実施時及び修学旅行において学童の運動強度と疲労との關係を検討し、学童の健康管理の参考に資すべく本研究を行なった。

調査の対象としては札幌市内H小学校五年生男女各5名を選出し、スキー・